

任意の $t_3 (> t_1, < b)$ に対してそれぞれ、

$$P^+(t_2) \ni Q, \quad P^+(t_3) \ni Q$$

である。故に

$$C^+(P) \ni P(t_1) = Q,$$

すなわち関係

$$K^+(P) \ni Q, \quad L^+(P) \ni Q \Rightarrow C^+(P) \ni Q$$

が成立するから

$$K^+(P) \subset L^+(P) \cup C^+(P)$$

が証明せられたわけである。

注意. $A \supset M$ が閉集合であつても $L^+(M)$ は必ずしも閉集合ではない。 $M (\subset A)$ が連結集合であつても $L^+(M)$ は必ずしも連結集合ではない。

従つてたとえ $M (\subset A)$ が閉集合であつても、 $L^+(M)$ は \bar{A} の上のどんなフィルター底に対して、一般にはその閉包とはならない (§4 参照)。

例 3.1. 例 1.2 を取上げる。 M で点 $(-2, 1)$ 、点 $(-2, -1)$ を結ぶ (両端を入れた) 線分を表わせば、 M は閉じた連結集合である。 $L^+(M)$ は点 $(0, 1)$ 、点 $(0, -1)$ を結ぶ (両端を入れた) 線分より原点をのぞいたものと点 $(-1, 0)$ より成る。点 $(0, 0)$ は $L^+(M)$ の集積点であるが、 $L^+(M)$ に属

さず、 $L^+(M)$ は閉集合でもなく連結集合でもない。

文 献

- (I) I. Bendixson; Sur les courbes définies par des équations différentielles, Acta Math., 24 (1901), p. 1.
- (II) N. Bourbaki; Topologie générale, Chap. I, Paris, 1951, 特に §§5, 6, 10, 11.
- (III) E. Kamke; Differentialgleichungen reeller Funktionen, Berlin, 1930, §22.
- (IV) 功力金二郎; 解析要論, 東京, 昭和 28 年, 第二章, 特に §11.
- (V) S. Lefschetz; Lectures on Differential Equations, Princeton, 1948, Chap. IV, V.
- (VI) H. Poincaré; Mémoire sur les courbes définies par une équation différentielle, J. de Math., (3), 7 (1881), p. 375; Oeuvres, t. 1., Paris (1928), p. 2.
- (VII) H. Poincaré; Les méthodes nouvelles de la mécanique céleste, t. III, Paris (1889), Chap. XXVI.
- (VIII) T. Ura; Sur les courbes définies par les équations différentielles dans l'espace à m dimensions, Ann. Sci. École Norm. Sup., (3), 70 (1953), p. 287.

会

報

1. Siegel, Eichler 教授の来日. 9 卷 1 号に予告したように、Göttingen 大学 C. L. Siegel 教授, Marburg 大学 M. Eichler 教授が来日されるはずであつたが、両教授は 3 月 27 日東京着、5 月初まで滞日され、京都、大阪、名古屋、東京、東北の各大学で講演されることとなつた。委細は別に会員にお知らせする。

2. Edinburgh Congress の出席者. 1958 年度の国際数学者会議は 8 月 14~21 日 Edinburgh で行われることも 9 卷 1 号で述べたが、本会からの出席予定者は次のようである：桂田芳枝、河口商次、雨宮一郎、一松信、福原満洲雄、佐武一郎、志村五郎、矢野健太郎、吉田耕作、米田信夫、能代清、小野勝次、秋月康夫、池田正験、村上信吾、正田建次郎、松阪輝久。

3. 数理科学研究所設立に関する公聴会. 8 卷 3 号および 9 卷 2 号で報告したように学術会議の数学研連応用数学小委員会で数理科学研究所設立の議が進められていたが、ようやく具体化されてきたので、4 月 7 日東大法文経 22 号室で、本会会員の意見を聴くため公聴会を開くこととなつた。

入 会・退 会

32 年 12 月以降の入会・退会者の氏名を次に掲げる。

入 会 者

- | | |
|--------------|---------------|
| 霍 崇 熙 (都立大理) | 前田 僖 郎 (都立大理) |
| 小林 三郎 | 飯谷 太一 (岡山県庁) |

- | | |
|-----------------|---------------|
| 大林 昇 (広島大理) | 上杉利種 (九大) |
| 小林 靖也 (自衛隊通信学校) | 久保田勇夫 (奈良学芸大) |
| 高木 俊介 (東京農工大) | 緒方速雄 (広島文理大) |
| 石田 鶴彦 (成蹊学園) | 前川 武 (大阪府立大) |
| 本原 義光 (商 業) | 田中尚夫 (都立大) |

退 会 者

- | | | | |
|-------|------|------|-------|
| 高橋 八郎 | 山口 恭 | 田中 明 | 長谷 隆司 |
| 永原 茂 | | | |
| 死 亡 者 | | | |
| 丸山 温行 | | | |

海 外 出 張 者

- 東京支部
 宇沢弘文 Stanford 大学 (Dept. Economics, Stanford Univ. Stanford Calif. U.S.A.)
 及川広太郎 (東工大助手) California 大学 (Dept. Mathematics Univ. of California, Los Angeles 24, Calif. U.S.A.) '57 年 8 月—'58 年 8 月。
 小林昭七 Inst. for Adv. Study, Princeton
 一松 信 (東大理助教授) Stanford 大学 '57 年 8 月—'58 年 8 月。
 米田 信夫 (東大理助手) Columbia 大学 (494 Main St. Fort Lee, N. Y. U.S.A.) '58 年 8 月。
 朝長 康郎 (宇都宮大助教授) Washington 大学 (Seattle)
 玉河 恒夫 (東大理助教授) Inst. for Advanced Study 滞在中 '58 年 4 月。
 高橋 礼司 Paris 大学
 安原 満 (東大理大学院) California 大学 (Berkley) '57 年 8 月—
 志村 五郎 (東大教養助教授) Paris 大学 '57 年 12 月—'59 年 10 月。
 佐武 一郎 (東大理助教授) Paris 大学 '58 年 1 月—'59 年 10 月。
 河田 竜夫 (東工大教授) Princeton 大学 '57 年 8 月, '58 年 2 月。